

【主の教会の存在目的】



今日の聖書本文；マタイの福音書：28-18-20 / 今週の暗唱聖句：使徒の働き13章47節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安の中で心も、体も守れましたか。今日からは旧約講解メッセージと交代交代しながら、共に聖書が教えて下さっているふさわしい教会は何なのかともに学びながらこれからともにクリスチャンプレイズチャーチの主の教会のビジョンを聖書の御言葉を通して、共に描きながら歩んで行きたいと願います。今日はその初めの時間として主の教会の存在の目的は何なのか共に考えて見たいと願っております。愛するみなさん！教会を毎週通いながらも教会の存在目的や使命についてははっきりとした確信や認識を持っている方々は多くはないと思います。教会に通い始めた方々には教会の存在目的とは交わりや情報交換くらいで考えているかも知れません。これらもちろん教会に必要な要素でもありますが、しかしこれが教会の究極的存在目的ではありません。みなさんは教会の存在目的はなんだと思ひ、教会に通っているのでしょうか？

教会で起きている大体の葛藤や意見などの衝突の原因を分析してみると教会が担うべき大切なことが何であるかに対する意見のちがいであることが分かります。たとえば、礼拝とか賛美とか祈りが一番大切だと思っている方々と聖書学びが一番大切だと思っている人々の信仰のスタイルが違うには同然かも知れません。礼拝とか賛美とか祈りが一番だと思っている人は聖書学びを一番に思っている人々に対して、信仰を知的な満足のために利用しているように思うかもしれません。反対に聖書学びを一番に思っている人は礼拝、祈り、賛美とかを一番に思っている人々が信仰の内容はなく信仰の形だけ大切にしているのだと思うかも知れません。

しかし、我々みながかみならず覚えなければならないことは**教会がやるべき一番の大切なことは我々が決める事ではないという事です**。それはすでにイエス様がそれが何かを教えてくださいましたからです。その内容が今日の本文の18-20節の箇所です。もう一度読んでみましょう。この御言葉こそ**教会の存在目的**だと私は思ひます。

なぜなら、この御言葉はイエス様が天に上げられるまで、十一人の弟子たちに最後に与えられた遺言だからです。イエス様が特別に訓練した十二人の弟子を使徒と呼びますが、使徒という意味は“遣わされた人たち”という意味です。ここで使徒の単語は複数(ふくすう)です。単数の時は‘ししん(使臣)’、もしくはししや(使者) ‘と言ひます。彼らの働きは一つのところで長らく牧会するのではなく、福音が伝えられてないところに行つて教会を立てる事でした。そういうわけで、使徒たちはどこに行くにしても福音を伝え、そこで教会を立て、イエス様が命じられたことに従ひ献身するイエスキリストの弟子たちを生み出し、育てたわけですから、これがまさに教会を立ててくださった存在目的だと思ひます。

今日の本文19-20節では四つの動詞が出ます。‘行つて’、‘弟子としなさい’、‘バプテスマを授け’“彼らを教えなさい”原語の聖書は四つの動詞の中で命令形は‘弟子としなさい’この一つだけで、ほかは分詞(ぶんし)です。つまり、‘あなたがたは弟子を作りなさい’という命令です。この御言葉の意味はつまり、**教会の存在目的はイエス様の弟子を作る事だと言ひます。イエス様が願つておられる教会となるためにはイエス様の弟子を作り出さなければならないという意味です。**

どんなにたくさんの奉仕や長い礼拝生活、宣教と伝道を熱心にやるにしても弟子を生み出さなければ教会はその存在目的を失つてしまうのです。

愛する信仰の家族のみなさん！弟子とはどんな人ですか？弟子は学ぶ人です。弟子になるためにはまず学ぶものであり、学んで身につけたものはまたかみならず、ほかの人にも受け継がせるものであります。何を学び、何を受け継がせるのですか？イエス様の生き方です。イエス様の人格を似て、その方の生き方を見本にしていく事をイエス様に似ていくと言ひます。これがまさにイエス様の弟子になっていく事です。時間が経ちながらイエス様に似ていく人、イエス様のように生きる人が増えていく時、その教会は教会の存在目的の通りに生きているのだと言ひます。

今日の聖書本文でイエス様は弟子を生み出していく教会になる具体的方法を教えてくださいました。

弟子を生み出す教会となるためにはまず、行かなければなりません。ところが、普段、我々は人々が来る事を待っています。すでに、ほかの教会に通っている人を誘つて我々の教会に座らせる事は伝道ではありません。神様を知らない人、神様が嫌いな人、神様を信じない人々を捜しに行く事こそが伝道の一步です。5年もしくは7年間ほど教会に通うと未信者の友たちがみんななくなるという統計を読んだことがあります。振り返ってみると私もそうです。これは本当に悲しい事です。我々は行かなければなりません。以前の酒ともにも行かねばなりません。自分と悪い事をしてた人々にも行かなければなりません。信じない友達を覚えて捜しに行かなければなりません。

その次はバプテスマを授けなさいと言ひました。未信者の友達とどんなに親しくてもそれで終わつてしまうと何の意味がありません。彼らにイエスキリストを紹介し、受け入れ、バプテスマを受けるようにしなければなりません。何の問題もなさそうに見える人々も実は罪の罪責感の呵責で苦しんでいる人々、様々な問題に抱えている人々、寂しさや孤独感の中で、むなしく生きている人々がたくさんいます。我々はその方々にイエス様を紹介する責任があります。イエスキリストだけが人間の罪の問題を、死の問題を、人生の寂しさの問題と虚しさを、心の深い傷を悩んでいる魂にまことの解決と救いを与えてくださるか

らです。

バプテスマを受けた後はイエス様から教えられたすべてを守るように教えなさいと命じられました。

知識的な聖書学びではなく、イエス様を信じて、古い自分の以前の価値観が変わって、イエス様の似姿に変えられる弟子を作る聖書の学びをしなければなりません。イエス様の似姿に変えられるようにと教える聖書学びを持続的にしなければなりません。

多くの教会は組織も良く出来ていて、良いプログラムもたくさんあって忙しく回っているのに、いざイエス様の弟子たちは生み出されない難しさをよく聞きます。それはイエス様が提示した弟子を作る方法にだけ偏って、教会の存在の究極的な目的を見逃してしまったからです。我々は教会の働きをしながら目的と方法をちゃんと区別してイエス様から与えられた使命を果す教会になればいいなと思っています。

私はイエス様の弟子を生み出させる一番の良い教会の構造(こうぞう)が家の教会だと思います。家の教会は最近出来上がった新しい教会の形ではなく、イエス様が思われた地上の教会の一番相応しい形であって、地上の教会で聖霊様が働かれたモデルとして立たされた一番古い初めての教会の姿でもあります。弟子を生み出させるためには知識や技術ではなく、それにふさわしい価値観と生活態度、そして弟子としての生き方を教えなければなりません。このような教えは小さいグループの中でのみ可能になります。大衆(たいしゅう)を対象にするには限界があります。

私は聖書を読みながら不思議に思った箇所があります。五つのパンと5匹の魚の奇跡を体験した人の数は男だけで5千、女や子どもたちを含めると約2万人もありました。ところが、使徒の働き1章を見ると集まって祈った信徒たちは120人しかいませんでした。ほかの人々はどこに行きましたか？ イエス様が宮で教える時多くの人々がイエス様の教えを聞きました。そして恵みも味わいました。しかし、イエス様が十字架につけられた時、その人々はどこにいましたか？大衆を相手にした説教は我々に感動を与え、決心までも導かれますが、具体的に弟子になるまでにはそんなに大きい効果はなかった事が分かります。弟子と言うのは何人かの人々が集まって分かち合い、生活をともにするときにこそ作られます。そういうわけで、イエス様も十二人を選んで、3年間生活をともにされました。これがイエス様が弟子を作られた方法だったのです。

私は家の教会がイエス様から与えられた大宣教命令を果すのにとっても効果的な道具として用いられると信じます。弟子を生み出すためにイエス様は‘行きなさい’と言われました。しかし、この命令に従って、信じていない人々に行って彼らを教会に連れてくるとしても伝統的な教会の構造としては後のフォロがうまくできません。しかし、家の教会では信じていない人々を招待して養うことがやりやすくなります。家の教会のメンバーたちがたとえば、ボーリングも行ったり、食事と一緒にしたり、ともになやみを分かち合い、ともに祈りあいながら仕えます。うちに来た人々の実際的な必要を満たしながら、キリストとともに生きる事はなにであるかを証しする事ができるのです。このような愛を家の教会をとおして体験してしまえば未信者たちは自然に福音に対して知りたくなると信じます。

バプテスマを受けなさいという命令も家の教会をとおしてとっても効果的に果す事ができると信じています。イエス様を信じていない人々は教会で疎外感や不満を抱く場合もけっこうあると思います。クリスチャンと言う者たちが自分たちの言いたい言葉だけを言って未信者たちの問題や悩みにはあまり関心がないように見えるからです。我々が福音を伝えようとするならその福音を伝えるのにふさわしく整えられなければなりません。‘どうやってあのようにすばらしく生きる事ができるのか、どうやってあのようにすばらしく仕える事ができるのか、どうすれば他人のために献身的に捧げる事ができるのか?’という疑問を持つような生き方でなければなりません。これがまさに家の教会をとおして可能になると信じます。

主の教えを守るように教えなさいという命令も家の教会をとおしてとっても効果的に果せると信じます。

日ごろともに愛の仕えがあり、分かち合い、親しく過ごしてきた方々との愛の仕えによって求道者たちはイエス様を信じ、受け入れる事ができホストたちととっても親近感を感じます。家の教会は続けて毎週持続的な愛の分かち合いと仕えによりイエス様を信じて受け入れるように助けるだけではなく、信じた後も持続的に成長していけるように大きな助けになると信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!イエス様は信じる我々に使命を与えてくださいました。わたしの弟子としなさいという使命です。我々は主の教会の存在目的をたしかに分かってその目的に向かって一緒に行こうではありませんか。我々がイエス様の弟子となってイエス様に似ていく事をどうやって分かりますか？

それを分かる方法は簡単です。自分たちの生活において癒しと愛の御業が起きているのかを見れば分かります。我々はだいたい心に深い傷と寂しさを感じて生きています。しかし我々は自分の傷に集中している間は治療ができません。傷つけられた心を他の人に吐き出したり、もしくは神様に祈ればすこしはすっきりされます。しかし、完全な癒しにはなりません。イエス様に似ていく時ようやくその傷は癒されていくのです。

イエス様の生き方を見ると、イエス様の人格の中で一番目立ったのは愛の仕えと赦しです。罪のない方が捕まえられて十字架で死なれていくときイエス様はなんと言われましたか？“わたしの敵に仕返して下さい。”と言われませんでした。ルカの福音書23章34節をみると、“父よ。彼らを御赦しください。彼らは自分たちが何をしているのかわかりません”これがまさにイエス様の姿でした。イエス様のように赦す人になっていく時、イエス様のように愛をもって仕える者になるとき、いつの間にか自分の中で癒しの御業が起こります。そしてその姿を見て救われるべき人は変わり始めます。教会は病院でなければなりません。神様の御前で罪人である我々が罪赦され、癒しと回復を経験し、神様の救いを体験していくところ、主の教会なるクリスチャンプレイズチャーチとなりますように仕えあっていきますように主の御名によって祝福します。アーメン!